

第3学期終業式式辞（令和7年3月19日）

皆さん、おはようございます。

3月1日の卒業式は、本当に感動的な式でした。厳粛でいて温かい、3年生はもちろん、在校生もすばらしい雰囲気を作ってくれました。加えて、「揚げば尊し」や校歌を歌う皆さんの歌声の大きさ美しさに、私は、この卒業式は愛媛県1、全国でもおそらく屈指の式だろうと思いました。皆さんはこのことを誇りに思っている、「誇りは高く夢は深く」、校歌の歌詞にふさわしい式でした。

そのように東高で学べることを誇りに思っている皆さんは多いと思います。そう考えたとき、私が、先日、火曜日の全校集会の開始時間についてほめた、その言葉を皆さんはどう受け止めているのだらうと思うようになりました。こんなことでほめられるというのは、東高の生徒にとって失礼なのではないか、校長先生、そんなことでほめないでいいですよ、と思っている人もいないかと思ったのです。生徒の皆さんは、実際のところ、どうでしょうか。私はこれからも、うれしかったことは伝えたいし、改善してほしいところはどんなにうっとうしく思われても伝えていきたいと思っています。

東高生だから、自分の言うことは正しい、少くくらい約束や時間は守らなくてもよい、というような思いがもしあるとしたら、それは「誇り」ではなくて「奢り」です。人間だし若いから、間違ったことをして指摘や注意を受ける、また、自分の考えのとおりにならないこともある、そのとき、辛抱して努力して逆境を跳ね返す、自分の「奢り」を捨て反省して「誇り」を取り戻す、そんなしなやかな強さを持ってほしい、そして、本当に賢い方法で、自分自身も集団も理想の方向へ導いてほしい、東高の皆さんならそれができると信じています。

例えば、4月に入って全校集会があったとき、1年生が先に並び、2、3年生が後から並ぶ、それでは、奢り高ぶった姿を1年生に見せてしまうことになる。逆に2、3年生が既に並んでいて、1年生がレベルの高い東高の姿に気付く、全校集会も、運動会も、先輩の姿を見て、いろいろな伝統が受け継がれていく、それが東高の理想の姿です。

“Stay hungry, stay foolish” アメリカの実業家スティーブ・ジョブズが、スタンフォード大学の卒業式で述べた言葉です。“Stay hungry, stay foolish” 直訳すると、ハングリーのままでもいい、愚かなままでもいい、となりますが、私は、hungry は経験や知識に飢えている状態、foolish は知ったかぶりをせず謙虚に知識や経験を求めようとする状態、謙虚にそして積極的に、つまり、「奢り高ぶらず謙虚に、そして情熱を持って実行せよ。」と捉えることができるのではないかと思います。

今日で、3学期が終わります。この機会に、3年生に贈った言葉、「情熱と実行」「豊かな人間性」そして「本当の強さと賢さ」、これを皆さんに改めて伝えます。謙虚に積極的に次のステップに進む皆さんのますますの活躍と健康を祈って、式辞を終わります。